

(第3種郵便物認可)

釜ヶ崎の赤いげ先生

— 本田良寛先生 —

《3》

本田良寛先生は、大阪社会医療センター付属病院長に就任する前の1983年1月4日、招へいされる形で釜ヶ崎の済生会今宮診療所の4代目所長に就任している。まだ、39歳の若さだった。

覚悟を決めて

それまでの所長は短期間で入れ替わっていたが、良寛先生は親の代からの開業医院を閉院して腰を据えて労働者たちの医療に打ち込もうとした。

そのため所長就任に際し、母校の大阪市立大医学部、済生会と良寛先生の三者で、①市大医学部の推薦②公衆衛生活動を含む調査研究の実施③報酬は本人の条件を保障する④医療活動は本人に一人任し、人・物品・資材は要求通り提供する⑤重要な事項は三者の責任で話し合う⑥の5点を確認してから就任している。

済生会今宮診療所の所長に就任



大阪社会医療センター付属病院の待合室

同社会医療センターで、良寛先生のもので長年働いていた大阪医療刑務所長、加藤保之さん

「(66)は「きっちり」と方向性を決められて、今宮診療所の所長に就任されたことは良いことだと思えます。父の代から開業していた医院を閉院しての就任ですから覚悟を決めておられた」と話している。

診療に訪れた日雇い労働者の一人が「先生、がっばり金ももてるんやろ」とつかかかってきたと

「先生は医療費が払えない患者に対しては、あんたが元気になって払えるようになってから払ったらえねん。診療費はやるんやない。何も氣を使わんでもええんや」とあくまで患者目線だった。医療費が払えなかったため、黙ってうつい患者とは、済生会今宮診療所との借用証を交わ

「労働者伝道」として西成に住み、おにぎりの炊き出しをしていた西成教会の金井愛明さんは生前、「本田さんは『地区の医療はおれに任せろ。その代わり、労働者に栄養のある物を食べさせてくれ』と言っていた」と話していた。

「あんたの信用貸しや」

きがかった。良寛先生が「そんなにもろてへんで」と言っても信用しない。

良寛先生は医療費が払えない患者に対しては「あんたの信用貸しや。あんたが元気になって払えるようになってから払ったらえねん。診療費はやるんやない。何も氣を使わんでもええんや」とあくまで患者目線だった。医療費が払えなかったため、黙ってうつい患者とは、済生会今宮診療所との借用証を交わ

大阪医療刑務所長の加藤さんは「本田先生に出会い、大阪社会医療センターでの経験をj経て、矯正医療の困難性や特殊性に直面して、矯正医療は社会医療であるとの考えに至った」と今も良寛先生を慕っている。



「本田先生は腰を据えて労働者たちの医療に打ち込みました」と話す大阪医療刑務所長の加藤さん

「(66)は「きっちり」と方向性を決められて、今宮診療所の所長に就任されたことは良いことだと思えます。父の代から開業していた医院を閉院しての就任ですから覚悟を決めておられた」と話している。

(大山勝男)